

部局名:健康福祉部子ども・家庭局

平成29年度当初予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
1	親の学び応援事業費	2,971	1
合 計		2,971	

事業概要

細事業名	親の学び応援事業費				区分	一部新規
	233	子育て支援と家庭・幼児教育の充実				
施策	23304	家庭・幼児教育の充実				
	目標項目		28年度実績値	31年度目標値		
基本事業	家庭教育を支援する市町・団体数(累計)		—	74市町・団体		
	三重県子ども条例					
根拠 (法令等)						
	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算額等	予算額	4,741千円				
	決算額	6,394千円				
事業の目的	<p>幼児期は、子どもの心身の健やかな成長を促す上で、極めて大切な時期であり、また、子どもの頃の体験活動が豊富な人ほど、意欲・関心や規範意識が高いという調査結果もあります。一方、核家族化が進み、地域の絆が薄れる中、乳幼児を持つ家族の不安感や負担感の軽減が求められています。</p> <p>そうしたことから、乳幼児等を持つ親に対し、企業や地域、幼稚園や保育所等多様な主体と連携・協力し、親の学びを応援するとともに子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりを進めます。</p> <p>「家族の絆一行詩コンクール」の募集を通じ、親子を始めとする家族や地域の絆の大切さについて啓発を行います。</p>					
	<p>・市町と連携し、乳幼児の親を対象にした「子育てはっぴいパパ・ママワーク」の開催。 (新規に取り組む市町 5市町)</p> <p>・企業や地域と連携し、男性の子育て応援講座の開催。(年10回)</p> <p>・野外体験保育に主体的に取り組むモデル園数。(累計5園)</p>					
前年度からの変更点	<p>家庭を取り巻く環境が変化する中、「教育の原点」である家庭教育に対する支援の必要性が高まっていることから、平成28年度に策定の「家庭教育の充実に向けた応援戦略(仮称)」に基づき、家庭教育にかかる気運醸成や具体的な取組方策を進めます。</p> <p>「家族の絆一行詩コンクール」の実施にあたり、親子の関わり方や親の子に対する思いなど家庭教育につながる部分をクローズアップし、保育園や幼稚園とも連携しながら効果的な事業の実施を図ります。</p>					

事業の必要性と期待される効果

孤立しがちになる乳幼児の親同士が、子育てについての悩みや思いを語り合うことで、子育てに関する不安の解消や、こうした交流の機会を通して、自身の役割や成長に自ら気づいたり、学んだりすることが期待されます。

また、企業や関係団体等と連携して、父親等を対象に子どもの生活習慣や自主性、社会性を身につけたり、自己肯定感を高めるなど、家庭においてできること、求められることなどを考える場づくりを進めることで、男性の育児参画を促進するとともに、子どもの豊かな育ちが期待されます。

加えて、県内の幼稚園や保育所等における、野外体験保育が充実することで、子どもの生き抜いていく力が育まれることが期待されます。

家庭を取り巻く環境が変化する中、「教育の原点」である家庭教育に対する支援の必要性が高まっています。家庭教育の充実により、各家庭が家庭教育に自主的に取り組む環境が整い、家庭を取り巻く地域社会全体で家庭を支える気運が醸成され、多様な取組が進むことが期待されます。

また、子どもたちが家族の絆に支えられて健やかに成長できるよう、子どもと大人が互いに気持ちを伝えあう機会を提供することで、互いの信頼関係を構築し、子どもが安心して自分らしく育つことが期待されます。

取組詳細

取組概要

市町と連携し、乳幼児の親同士の交流の機会の提供を行うとともに、男性の育児参画を進める中で、企業や関係団体等と連携して、父親等を対象に子どもの生活習慣や自己肯定感を高めることなどを考える場づくりを提供するなど、子育て家庭を応援する取組を進めます。

また、自然体験を通じた子どもの生き抜いていく力を育む取組の普及啓発等を幼稚園や保育所等関係機関と連携して進めます。さらに、「家庭教育の充実に向けた応援戦略（仮称）」に基づき、家庭教育に関する気運づくりや、市町と連携した取組を進めます。

子どもと大人が短いメッセージで気持ちを伝えあう、家族の絆一行詩コンクールを実施します。

取組内容等

(1) 子育てはっぴいパパ・ママワーク事業

はじめての子育てには不安が多く、孤立しがちになる状況もあることから、乳幼児を持つ親同士が子育てに関するテーマをもとに様々な悩みや思いを語り合い、その中で気づきや学ぶことができるワークショップを開催するとともに、こうした取組が広く展開されるよう市町に働きかけます。

(2) 職場及び地域における男性子育て応援講座事業

職場や地域で父親が集う場等において、男性が子どもの生活習慣や自己肯定感、社会性を育むことに関わることの魅力や大切さについて学ぶための機会を提供します。(10回程度/年)

(3) 野外体験保育普及・啓発事業

野外体験保育に主体的に取り組む県内の幼稚園や保育所等におけるアドバイザーの派遣や、事例研究

会の開催による人材育成支援を行うことで、幼稚園や保育所等における野外体験保育の充実を図ります。

(4) 知事復活事業 (重点事業)

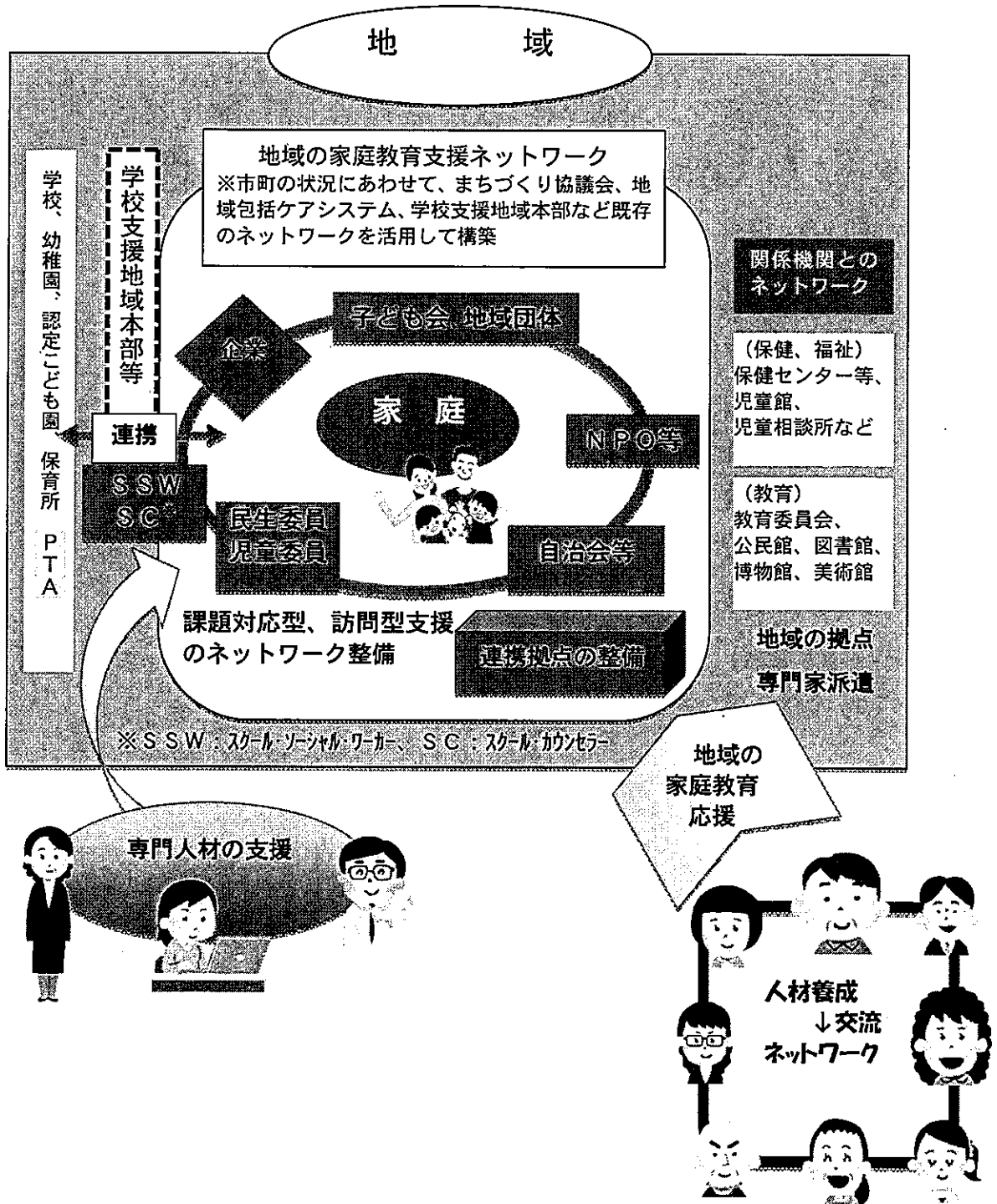
【新】家庭教育支援推進事業

2,971千円(うち県費 2,971千円)

平成28年度に策定する「家庭教育の充実に向けた応援戦略(仮称)」に基づき、家庭教育に関する理解を広く県民に対し啓発するため、リーフレットの作成やフォーラムの開催を行います。

また、地域で孤立しがちな家庭など、支えを必要としている多様な家庭に応じた取組を進めるため、各地域それぞれの強みや特徴を生かした家庭教育の応援ためのネットワークづくりを、市町と連携してモデル事例として具体化し、その横展開を図ります。

※事業の展開イメージ



(5) 家族の絆一行詩コンクール事業

「家族の絆一行詩コンクール」の募集を通じ、親子を始めとする家族等の絆の大切さについて啓発を行います。

[実績等]

	H26 年度	H27 年度	単位
子育てはっぴいパパ・ママワーク開催市町数（累計）	10	12	市町
一行詩応募作品数	11,930	11,294	作品数

※平成 26 年度は、家庭の養育力向上事業費における実績

[財源負担割合] (1) (2) (3) (5) 国 1/2 (新型交付金)・県 1/2
(4) 県 10/10

[事業負担割合] (1) (2) (3) (5) 国 1/2 (新型交付金)・県 1/2
(4) 県 10/10

[事業開始年度] 平成 26 年度 2 月補正 (平成 27 年度に繰越して実施)

事業概要

細事業名	親の学び応援事業費				区分	一部新規
	233	子育て支援と家庭・幼児教育の充実				
施策	23304	家庭・幼児教育の充実				
	目標項目		27年度実績値	31年度目標値		
基本事業	家庭教育を支援する市町・団体数（累計）		12市町・団体	74市町・団体		
	三重県子ども条例					
根拠 （法令等）						
予算額等	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	予算額		4,741千円			
	決算額	6,394千円				
事業の目的	<p>幼児期は、子どもの心身の健やかな成長を促す上で、極めて大切な時期であり、また、子どもの頃の体験活動が豊富な人ほど、意欲・関心や規範意識が高いという調査結果もあります。一方、核家族化が進み、地域の絆が薄れる中、乳幼児を持つ家族の不安感や負担感の軽減が求められています。</p> <p>そうしたことから、乳幼児等を持つ親に対し、企業や地域、幼稚園や保育所等多様な主体と連携・協力し、親の学びを応援するとともに子どもが豊かに育つことができる地域社会づくりを進めます。</p>					
	<p>・市町と連携し、乳幼児の親を対象にした「子育てはっぴいパパ・ママワーク」の開催。（新規に取り組む市町 5市町）</p> <p>・企業や地域と連携し、男性の子育て応援講座の開催。（年10回）</p> <p>・野外体験保育に関するシンポジウムの開催。（年1回）</p>					
前年度からの変更点	<p>核家族や共働き家庭が多いことから、新たに企業や関係団体等と連携し、子育て家庭に対する理解や取組をさらに進める必要があることから、父親等を対象に子どもの生活習慣や自主性、社会性、自己肯定感を高めるなど、家庭においてできること、求められることなどを考える場づくりを促進します。</p> <p>子どもの生き抜いていく力の育成に向け、平成27年度の「野外体験有効性調査」結果を踏まえ、新たに県内の幼稚園や保育所等における野外体験保育が充実するよう、普及啓発や人材の育成に取り組めます。</p>					

事業の必要
性と期待さ
れる効果

孤立しがちになる乳幼児の親同士が、子育てについての悩みや思いを語り合うことで、子育てに関する不安の解消や、こうした交流の機会を通して、自身の役割や成長に自ら気づいたり、学んだりすることが期待されます。

また、企業や関係団体等と連携して、父親等を対象に子どもの生活習慣や自主性、社会性を身につけたり、自己肯定感を高めるなど、家庭においてできること、求められることなどを考える場づくりを進めることで、男性の育児参画を促進するとともに、子どもの豊かな育ちが期待されます。

加えて、県内の幼稚園や保育所等における、野外体験保育が充実することで、子どもの生き抜いていく力が育まれることが期待されます。

取組詳細

取組概要

市町と連携し、乳幼児の親同士の交流の機会の提供を行うとともに、男性の育児参画を進める中で、企業や関係団体等と連携して、父親等を対象に子どもの生活習慣や自己肯定感を高めることなどを考える場づくりを提供するなど、子育て家庭を応援する取組を進めます。

また、自然体験を通じた子どもの生き抜いていく力を育む取組の普及啓発等を幼稚園や保育所等関係機関と連携して進めます。

取組内容等

(1) 子育てはっぴいパパ・ママワーク 417千円(うち県費 209千円)

はじめての子育てには不安が多く、孤立しがちになる状況もあることから、乳幼児を持つ親同士が子育てに関するテーマをもとに様々な悩みや思いを語り合い、その中で気づきや学ぶことができるワークショップを開催するとともに、こうした取組が広く展開されるよう市町に働きかけます。

(2) 【新】職場や地域における男性の子育て応援講座 900千円(うち県費 450千円)

職場や地域で父親が集う場等において、男性が子どもの生活習慣や自己肯定感、社会性を育むことに関わることの魅力や大切さについて学ぶための機会を提供します。(5回程度/年)

(3) 【新】野外体験保育普及・啓発事業 3,424千円(うち県費 1,712千円)

平成27年度に実施した、野外体験保育有効性調査結果を踏まえ、県内の幼稚園や保育所等における人材育成やシンポジウム等を行うことで、野外体験保育に関する効果や実践例などを広く周知し、その社会的認知を広めるとともに、幼稚園や保育所等における野外体験保育の充実を図ります。

シンポジウムの開催 (1回/年)

[実績等]

	H26年度	H27年度	単位
子育てはっぴいパパ・ママワーク開催市町数(累計)	10	12	市町

※平成26年度は、家庭の養育力向上事業費における実績

[財源負担割合] 国 1/2(新型交付金)・県 1/2

[事業負担割合] 国 1/2(新型交付金)・県 1/2

[事業開始年度] 平成26年度 2月補正(平成27年度に繰越して実施)

成果と残された課題

市町と連携し、乳幼児の親同士の交流の機会や、学習の機会となるワークショップ「子育てはっぴいパママワーク」を開催しました。引き続き、多くの市町で開催されるよう働きかける必要があります。一方で、こうした取組には父親の参加が少ないことから、企業や団体等と連携した、父親等を対象に子どもの生活習慣や自主性等について考える場づくりが必要です。

平成 27 年度に実施した野外体験保育有効性調査の結果をふまえて、野外体験保育に主体的に取り組もうとする幼稚園や保育所等を募集し、アドバイザーを派遣（3 園で実施）します。引き続き、子どもの生き抜いていく力の育成に向け、野外体験保育に関して広く普及啓発や人材育成に取り組む必要があります。

家庭を取り巻く環境が変化する中、「教育の原点」である家庭教育に対する支援の必要性が高まっていることから、関係部局が連携し検討を進めています。

下半期（翌年度）に向けた改善のポイントと取組方向

引き続き、市町と連携し、「子育てはっぴいパママワーク」を開催するとともに、こうした取組を県内各地に広げるための進行役の養成を進めます。また、企業や団体等と連携し、父親等を対象に子どもの生活習慣や自主性等について考える場への講師を派遣します。

引き続き、野外体験保育に主体的に取り組もうとする幼稚園や保育所等にアドバイザーを派遣するとともに、各施設で野外体験保育を推進する人材の育成として事例研究会を開催するとともに、機運醸成を行うためシンポジウムを開催します。

関係部局が連携し、年度内に、家庭教育の充実を図るための応援方策を整え、庁内外の体制構築をめざします。